

# ノーサイド

北原巖男

間に及ぶ激しい独立回復闘争が続きます。

この間の犠牲者は約20万人。当時の人口が約80万人ですから、途方もなく沢山の皆さんが、祖国の独立回復の為に命を懸け、殉じたのです。

幾多の紆余曲折を経て、国連監視の下で実施されたのが独立の賛否を問う1999年8月30日の住民投票。なんと投票率は98・6%。その78・5%が独立賛成票を投じました。独立が決まった瞬間です。

10月に2週間、東ティモールに行つて参りました。1975年。あの泥沼のベトナム戦争が終結したその年に、南方の東ティモールでは激しい独立回復闘争が開始されました。

同年11月30日にポルトガルからの独立を宣言したものの、瞬く間に隣国インドネシアによって武力併合され、27番目の州にされてしまったからです。爾後24年

間に加え激しい独立回復闘争が続きます。

功しないだろうと見られていた東ティモールの独立回復闘争。しかし卓越したりな国づくりに邁進しなければなりません。

21世紀最初の独立国・アツアで一番新しい国として誕生しました。独立回復の創

に对应して、国民いずれもが豊かな生活を営めるような国づくりに邁進しなければなりません。

特にかつては命懸けに近しいスリルをもって通つていたことと思います。

## 創業と守成と

### いず 孰れか難き

業」を成し得たのです。

あれから17年。「創業」の時代を経た東ティモールの時代は、今「守成」の時代にあります。

独立回復闘争で一緒に戦ってきたリーダーをはじめ、「守成」に取り組む人材は、自らが身を正し、団結し、急速に変化する時代に柔軟

から、新たな日本の「創業」に全力で取り組んで行かなければならないと思ひます。

常にかつては命懸けに近しいスリルをもって通つていたことと思います。

た道路の整備が進んでいることは驚きでした。同国初、南部に開通したばかりの片道2車線の高速度道路も走りました。しかし、その耐久性、高速度道路によって分断された地域住民の生活の利便性への対応、運用面の安全性など、解決すべき大きな課題も同時に散見されま

元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現(一社)日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会理事

北原 巖男

(きたはらいわお)